

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2275500631		
法人名	有限会社 ワイ・エイチ企画		
事業所名	グループホーム サンシティはいばら(1階、2階)		
所在地	静岡県牧之原市仁田563番地1		
自己評価作成日	平成24年2月15日	評価結果市町村受理日	平成24年3月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ai.gokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2275500631&SC

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシビル6階		
訪問調査日	平成24年2月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様一人ひとりが安心・安全で飽きのこない生活を送っていただけるよう、職員が協力し、支援するよう心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周囲には畑や民家が点在し、懐かしさを覚えるような自然豊かな環境に立地している。開設後7年が経過し、管理者が地道に地域の会合などに参加している成果もあってか、地域の祭典に参加することも恒例行事となっている。また事業所のイベントにも毎年地域から大勢の参加があり賑わいをみせている。また今年度からは傾聴ボランティアの訪問がおこなわれている。毎月3~4人のボランティアが定期的に訪問し、傾聴だけでなく朗読や紙芝居などもおこなわれるため利用者は楽しい時を過ごせるという。心身機能の低下を防ぐために散歩に出たり、ラジオ体操をしたり、唄を歌ったり、菜園を楽しんだり、多様なメニューで飽きのこない生活を送ることができるように支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を理解・共有し、実践に繋がれるように協力し努めている。	理念にもとづいて「安心・安全」「地域との交流」を運営の目標としている。理念についてはメインの職員の意見を中心に、ミーティング等で反映されている。また、利用者が安全な環境で生活できるように職員から意見があがる事もあるという。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	施設行事には地域の方々にも参加していただき、地域の行事には利用者も参加させていただき、月に1度は傾聴ボランティアを利用させていただき交流を深めている。	半年ごとに管理者が町内会会合に参加している。事業所の秋祭りは回覧板で広報し、100名もの参加が得られている。地域で開催していた「餅つき」が事業所の秋祭りの開催に委譲されることから地域との結びつきが覗えた。	ボランティア訪問の受け入れが安全に継続するよう、受入票など書式や記録の整備を期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では、認知症について話合う機会を作っているが地域の人々には活かせていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に井戸運営推進会議を開催しているが、ご家族様は少人数の参加となっている。利用者にも参加していただき、この中でいただいたご意見を参考にサービスの向上に努めている。	年に1回程度ではあるが、運営推進会議に町内会長や消防署職員も会議に参加している。今年度は運営推進会議に利用者本人も参加するようになり、会議の進行には関わりにくかったものの、今後も家族と利用者とは方針を共有するための機会として活用する予定がある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センター・介護支援係の担当者には相談したり、運営推進会議には毎回出席していただく事で協力関係を築いている。	原則として、市職員が運営推進会議に毎回参加している。市からの意向もあり、また運営状況を報告する場としても役立っているため、市職員が参加しやすいように開催時間を平日日中に設定している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の講習に参加したスタッフがミーティングで報告をし、職員全員が理解できるように努め、施設では身体拘束ゼロ宣言をして取り組んでいる。	身体拘束ゼロ宣言を継続している。「夜間の玄関以外には施錠しない」「ベットの過剰な設置は行わない」などの方針を定めている。職員からのスピーチロックを防ぐため、「バリテーション」などの手法を取り入れている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が起きないための話し合いの場を設け、常に利用者の状態を観察し防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会は設けているが、実際は活用までには至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等での改正・改定が生じた場合には、ご家族に文面で通達を行い、質疑があった場合には十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部から介護相談員の導入を行っている。	「参加しなかった場合でも運営推進会議の議事録を届けてほしい」との家族からの意見を反映して、議事録を送付するようになった。家族からは運営推進会議の時間を参加しやすい時間に設定して欲しいとの要望もあり、今後は家族会の開催を検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設ミーティングを3か月に2度設けており、代表者・管理者への提案を聞けるようにしている。月に1度のフロアミーティングで出た意見は管理者から代表に提案するようにしている。	ミーティングの際にはリーダーとなるスタッフを中心に、意見を出しやすいように発言を促している。例えば帳票の改善など、職員からの提言により運営に反映された例もある。また、今後は法人代表による個人面談がおこなわれるように検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要な研修を受ける機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の主催した講習会に参加するなど交流する機会を設けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントシートを活用し、利用者の話をよく聞き、日常で困っている事・不安に思っている事があれば一緒に悩み、考え、少しでも利用者の不安をなくし安心して生活が送れるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が面会に来られた際には、職員が声をかけ不安や要望等の有無を確認し、より良いサービスが提供できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前には、利用者・ご家族に面会し、どのような支援を望まれていて、どのような支援が必要かを見極めるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者が出来る事(掃除・洗濯・炊事)は手伝っていただき、職員と一緒にやる事で支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の悩みや不満が聞かれた時は、ご家族にも相談し、協力し支えていけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設の行事には地域の方や・馴染みの方々にも参加していただき、利用者・ご家族・地域との関わりを大切にしている。	外食の際には、家族にも事前に参加を確認して利用者と一緒に外出できるように支援している。外出やイベントの様子は「サンシティはいばら新聞」に記載して同行できなかった家族にも様子が分かるようにしている。宗教活動など、利用者は在宅時からの活動も継続できている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が良い関係を築いていけるようにサポートしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても相談や依頼にはできる限りの対応をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの希望や意向を生活の中で見つけ出したり、会話から聞いた事を活かして思いに沿えるように努めている。	センター方式のアセスメントを一部活用してアセスメントをおこなっている。利用者からの聞き取りの内容は「申し送りノート」に記載して共有している。意向の表出が困難な利用者には、職員が個別に聞き取ったり対応することで把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を用いたり、ご家族からの情報を集めている。面会時にはより多くの情報を得られるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で職員が利用者の状態を把握するように努め、得た情報はミーティング等で話し合い共有できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者・ご家族からのモニタリングを基に、利用者がより良い生活ができるように介護計画を作成している。	モニタリングの結果は「評価票」に記入し、「見直しシート」で再度課題を抽出している。計画作成にあたりミーティングで職員の意見を集約し、計画作成担当が作成している。ミーティングで職員が関わることにより、介護サービス提供現場での実践にもつながっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の様子はケース記録に記入し、重要事項に関しては、申し送りノートに記録し、職員全員が把握できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の状況やニーズに柔軟に対応できるよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診には出来る限り職員が同行し、日常の状態を医師に伝え、医師の指示を仰げるように努めている。	従来からのかかりつけ医に受診する利用者についても、原則として職員が同行している。受診には職員(遅番)が同行することで、夜勤帯への連携がスムーズになっている。「通院記録」には日頃の状況や主治医からの意見、投薬の状況が的確に記載されていた。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度は看護師が健康チェックに来ている。日頃気になっている利用者の情報を伝え、看護師に話を聞いてもらえるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、フェースシートを作成提供し、情報交換に努め、面会に行った際には看護師と情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に関しては、担当医を通し、訪問看護を利用する事をあらかじめご家族に伝えて支援に努めている。	昨年末に事業所で初めて看取りを経験した。医師の紹介のもと訪問看護の協力も得られ、また看取り経験のあるグループホームからのアドバイスもあったためスムーズにおこなえたという。今後は、24時間対応の医療機関との連携を向上させていくという目標がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置は消防署主催の訓練に参加し、身に着けるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2度、消防署立ち合いで訓練を行っている。	近くの高台にあるグラウンドを避難場所として定め、地域の避難訓練に管理者が参加している。利用者の参加については、大勢が参加するため安全が確保されず、現在は見合わせている。自主防災会が事業所の訓練に参加することを今後の目標として、連携をはかっている。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人の人格を尊重した言葉かけに配慮している。	やっではないけない事を「ダメ」とは言わずに表現を工夫して伝えるようにしている。「トイレの扉は閉めて介助する」「上着といえど自室で着替える」「利用者の前で他の人の会話をしない」などのルールを定めて利用者のプライバシーを確保している。	一部の職員ではあるが不適切と感じられる言動がみられているため、職員同士での話し合いが望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人より希望があた場合には、出来る限り、自己決定出来るよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々、利用者の希望に沿えるよう支援しているが、全て希望通りには出来ていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分の馴染みの化粧品などで、オシャレが出来る、また、外出時には、普段よりオシャレな服を着ていただくなどしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみになるよう、メニューには気を配り、利用者が食べたいものを聞くなどしている。準備や片付けも一緒に行っている。	地域の産品や敷地内で採れた食材も活用して調理している。また誕生日などの行事食も提供している。利用者は準備や片付けなど出来る範囲で手伝い、調査時も利用者が自ら下膳にかかわるなど普段からの取り組みが覗えた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた食事の提供、水分補給を心掛けている。状態によっては、ゼリーなど飲みやすいもので対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア時には、職員が近くで見守り、必要に応じて、声掛け・支援を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁を減らせるよう、トイレ誘導に気を配っている。夜間も無理のないトイレ誘導、ポータブルトイレも夜間のみ使用にするなど、トイレでの排泄忘れを極力減らす支援を行っている。	「できるだけトイレで排泄する」ということを方針としている。本人の訴えや排泄時間にもとづき定期的に誘導している。家で便秘で困っていた利用者も、定期的なトイレ誘導により腹圧がかかったためか便通がよくなったという例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取、牛乳を飲んでいただくなどし、排便の記録をし、場合によっては服薬にて対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者本位での入浴支援はできていない。週2~3回の入浴がほとんどで、自立に近い方のみ2日に1回の入浴となっている。	「2日に1回入浴したい」など入浴日に関する要望は実現しているが、「夜間に入浴したい」など時間によっては希望に添えないこともある。入浴介助の際には職員が会話したり一緒に唄を歌ったりするなど、利用者が楽しめるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の様子で休んでいただいたり、リオンなど定期的に洗濯し、気持ちよく休んでいただけるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬には気を配り、人によつての服薬の目的を理解している。服薬の間違い、忘れがないように確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の負担にならない程度で食器拭き・洗濯もの手伝いをしていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	利用者の意見を取り入れた外出に努めている。ご家族も誘い、一緒に外出、外出に出かけたりしている。	近くの神社まで、約10分ほどの散歩コースを設定している。今春、気候が穏やかになったら外出が困難な利用者も積極的に外出できるように、個別の目標計画を立てている。外出レクリエーションでは吉田公園や掛川まで行ったり、家族同行で回転寿司などの食事を楽しんでいる。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人のお金の所持はできていない。施設側で管理している。一緒に買い物に行った際には、希望の物を購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人がご家族への電話を望まれた際には、電話をかけお話をさせていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内に居ても季節を感じられるよう季節の花を飾ったり、利用者に季節の絵を描いていただき壁に張り出したりしている。	玄関には生花が飾られ、共用空間にも観葉植物などが飾られている。加湿器や空気清浄器も備え、排煙扉を定期的に開閉することで、換気も十分におこなっている。廊下やトイレにも絵が飾られていたり、消臭の炭が置かれているなど細かい配慮が覗えた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーなどで気軽に話が出来よう、場所にも気配りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人の馴染みのものを使用していたき、本人の落ち着く空間づくりに心掛けている。	居室内にはエアコンやベットが備え付けられ、布団での宿泊を希望すればマットを敷いて生活することもできる。エアコンのリモコンは、居室ごとに利用者も操作することができる。居室内にテレビや仏壇を持ち込んだり、カーペットを敷いてのんびりと寛いでいる様子が確認された。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室とトイレの位置関係などを考慮し、その人にあった居室の提供。自立を目指した環境づくりに気を配っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は理念を共有し、実践に繋がられるよう努力しているが、地域密着には繋がられていない。	理念にもとづいて「安心・安全」「地域との交流」を運営の目標としている。理念についてはメインの職員の意見を中心に、ミーティング等で反映されている。また、利用者が安全な環境で生活できるように職員から意見があがる事もあるという。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	年に1度秋祭りを開催し、地域との関わりを持てるようにしているが、日常的な交流とまでは至っていない。	半年ごとに管理者が町内会会合に参加している。事業所の秋祭りは回覧板で広報し、100名もの参加が得られている。地域で開催していた「餅つき」が事業所の秋祭りの開催に委譲されることから地域との結びつきが覗えた。	多種多様なボランティア訪問も受け入れられるように、記録など帳票の整備を期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	活かさきれていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でご家族からの意見を取り入れ、サービスの向上に努めている。	年に1回程度ではあるが、運営推進会議に町内会長や消防署職員も会議に参加している。今年度は運営推進会議に利用者本人も参加するようになり、会議の進行には関わりにくかったものの、今後も家族と利用者とは方針を共有するための機会として活用する予定がある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者には、相談の連絡をしたり、運営推進会議に出席していただき、協力関係を築いている。	原則として、市職員が運営推進会議に毎回参加している。市からの意向もあり、また運営状況を報告する場としても役立っているため、市職員が参加しやすいように開催時間を平日日中に設定している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は、身体拘束をしないケアを理解し、身体拘束をしない支援を行っている。	身体拘束ゼロ宣言を継続している。「夜間の玄関以外には施錠しない」「ベットの過剰な設置は行わない」などの方針を定めている。職員からのスピーチロックを防ぐため、「バリテーション」などの手法を取り入れている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者・職員は、高齢者虐待防止関連法を学び、注意・防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学んではいるが、関係者との話し合いや活用までには至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の凍結や解約等が生じた場合には、その都度説明をおこなっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からの要望、意見があがったときは、管理者、職員に伝え改善に努めている。	「参加しなかった場合でも運営推進会議の議事録を届けてほしい」との家族からの意見を反映して、議事録を送付するようになった。家族からは運営推進会議の時間を参加しやすい時間に設定して欲しいとの要望もあり、今後は家族会の開催を検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議を年に2回は開催していて、職員の意見を聞く時間を設けている。	ミーティングの際にはリーダーとなるスタッフを中心に、意見を出しやすいように発言を促している。例えば帳票の改善など、職員からの提言により運営に反映された例もある。また、今後は法人代表による個人面談がおこなわれるように検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況は、管理者に聞いたり、職員個々にアンケートを実施するなど把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は外部研修を受ける機会をもらい、ケアの力量の向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	秋祭りに同業者に参加してもらい、少しずつ交流の機会を作っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望を出来る限り取り入れ、安全、安心な生活が送れるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望を聞き、定期的に連絡をする事でより良い関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入の段階でよりよい支援が出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が出来る事を手伝っていただく事で支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、利用者のご家族の絆を理解し、ご家族と一緒に支えていけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	秋祭りには馴染みの方々にも参加していたき、関係が途切れない支援を行っている。	外食の際には、家族にも事前に参加を確認して利用者と一緒に外出できるように支援している。外出やイベントの様子は「サンシティはいばら新聞」に記載して同行できなかった家族にも様子が分かるようにしている。宗教活動など、在宅時からの活動も継続できている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人一人が支えあえるような支援に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族からの要望があれば、利用が終了してもフォローできるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との会話の中で希望、意向を聞き、出来るだけ添えた支援をするよう努めている。	センター方式のアセスメントを一部活用してアセスメントをおこなっている。利用者からの聞き取りの内容は「申し送りノート」に記載して共有している。意向の表出が困難な利用者には、職員が個別に聞き取ったり対応することで把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族にも協力していただき、情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1度フロアミーティングを行い、日々の変化と対応策を話し合い、現状に沿った介護計画を作成している。	モニタリングの結果は「評価票」に記入し、「見直しシート」で再度課題を抽出している。計画作成にあたりミーティングで職員の意見を集約し、計画作成担当が作成している。ミーティングで職員がかかわることにより、介護サービス提供現場での実践にもつながっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、申し送りノートを活用することで、職員間で情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	様々なニーズに対応できるよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握はしているが、活用までには至っていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	適切な医療が受けられるように支援に努めている。	従来からのかかりつけ医に受診する利用者についても、原則として職員が同行している。受診には職員(遅番)が同行することで、夜勤帯への連携がスムーズになっている。「通院記録」には日頃の状況や主治医からの意見、投薬の状況が的確に記載されていた。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診にはできる限り職員が同行し、医師に状態を伝えるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には、情報交換に努めることで関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	極力、早い段階で重度化した場合の支援についてご家族と話し合い、事業所で出来る事の説明をおこなっている。	昨年末に事業所で初めて看取りを経験した。医師の紹介のもと訪問看護の協力も得られ、また看取り経験のあるグループホームからのアドバイスもあったためスムーズにおこなえたという。今後は、24時間対応の医療機関との連携を向上させていくという目標がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署主催の蘇生の講習に参加するなどし実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を定期的に行い、災害時に迅速な対応ができるよう訓練している。	近くの高台にあるグラウンドを避難場所として定め、地域の避難訓練に管理者が参加している。利用者の参加については、大勢が参加するため安全が確保されず、現在は見合わせている。自主防災会が事業所の訓練に参加することを今後の目標として、連携をはかっている。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重した言葉かけができるよう努めている。	やっではないけない事を「ダメ」とは言わずに表現を工夫して伝えるようにしている。「トイレの扉は閉めて介助する」「上着といえど自室で着替える」「利用者の前で他の人の会話をしない」などのルールを定めて利用者のプライバシーを確保している。	一部の職員ではあるが不適切と感じられる言動がみられているため、職員同士での話し合いが望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自己決定及び選択できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り利用者の希望に添った支援に心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員側が決めるのではなく、利用者が選択できるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しんでいただけるよう、メニューに気を配り、利用者に食べたいものを聞いてメニューを決めたりしている。	地域の産品や敷地内で採れた食材も活用して調理している。また誕生日などの行事食も提供している。利用者は準備や片付けなど出来る範囲で手伝い、調査時も利用者が自ら下膳にかかわるなど普段からの取り組みが視えた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた食事の提供、水分補給に心掛けている。利用者の状態によって食事形態を考慮して支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア時には、職員が近くで見守り、必要に応じて、声掛け・支援を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁を減らせるよう、利用者の排泄パターンを理解し、トイレ声掛け・誘導を行っている。	「できるだけトイレで排泄する」ということを方針としている。本人の訴えや排泄時間にもとづき定期的に誘導している。家で便秘で困っていた利用者も、定期的なトイレ誘導により腹圧がかかったためか便通がよくなったという例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、牛乳、ヤクルトを飲んでいただくなどし予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の希望通りの入浴はできていない。	「2日に1回入浴したい」など入浴日に関するの要望は実現しているが、「夜間に入浴したい」など時間によっては希望に添えないこともある。入浴介助の際には職員が会話したり一緒に唄を歌ったりするなど、利用者が楽しめるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者が休みたい時に休んでいただけるような支援・声掛けを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬には気を配り、服薬の目的を理解し、服薬の間違い、飲み忘れがないよう支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者が負担に思わない程度に役割を作り日々の生活に張り合いを持てるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の意見を取り入れた外出に努めているが、利用者のADLの低下に伴い外出の頻度は減少している。	近くの神社まで、約10分ほどの散歩コースを設定している。今春、気候が穏やかになったら外出が困難な利用者も積極的に外出できるように、個別の目標計画を立てている。外出レクリエーションでは吉田公園や掛川まで行ったり、家族同行で回転寿司などの食事を楽しんでいる。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者は金銭管理を行っていない。買い物に出かけた際には、利用者が希望しているものを購入していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が電話した時には電話できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内・フロアに居ても季節を感じられるよう、季節の花を飾ったり、季節の絵画を貼ったりしている。	2階の共用空間には生花が飾られ、創作した季節の貼り絵や、創作したつるし飾りが展示されている。加湿器や空気清浄器も備え、館内の排煙扉を定期的に関閉することで、換気も十分におこなえている。廊下やトイレにも絵が飾られていたり、消臭の炭が置かれているなど細かい配慮が視えた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファに座られ気軽に会話を楽しんでもらえるよう場所にも気配りしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室では利用者が馴染みの物を使用し、利用者が落ち着き安心して生活できる空間作り心掛けています。	居室にはエアコンやベットが備え付けられ、布団での宿泊を希望すればマットを敷いて生活することもできる。エアコンのリモコンは、居室ごとに利用者も操作することができる。居室内にテレビや仏壇を持ち込んだり、カーペットを敷いてのんびりと寛いでいる様子が確認された。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレの位置関係などを考慮し、利用者にあった居室の提供を行っている。		